



第359号

発行  
浄土真宗  
心光寺  
奥原曇龍  
倉敷市早高426  
☎(086) 420-1311



# 静かに暮れゆく



カット：  
本多 紘子

今年も押しつつまり、慌ただしい季節となりました。今年の5月1日より元号が『平成』から『令和』となり、天皇陛下や皇后陛下の皇位が生前に皇太子や皇太子妃に譲られ、11月14日には天皇陛下の即位に伴う皇室行事「大嘗祭」も無事に終わり良かったですね。今年の一年も世界中で色々な災害が有りすぎ、驚きと不安の連続でした。

この毎月一回のお寺の新聞『ともしび』も、平成2年1月より書き始め今月号の令和元年12月号で丸30年となります。ここまで長く続けてこられたのも、皆様方のご支援のお陰と感謝しています。

『十年一昔』という諺がありますが、愚僧が倉敷で宗教活動を始めて30年ということは、昔の、昔の、そのまた昔のことになるのかな。

昭和23年生まれの子供は団塊の世代と呼ばれ、日本の敗戦後の貧しい時代を覚えていきます。日本は四大工業地帯を中心に、農業国から工業国に変身し、昭和39年には東京オリンピック、昭和45年には大阪万国博覧会が催され、先進国に追いつきました。田中角栄総理の日本列島大改造論で、工業地帯が各地に出来、山が削られ海や川が埋め立てられ、工場の煤煙や廃液の公害で苦しむ人が増えました。便利さと物の豊かさを追求した昭和のバブルも終わり、平成に入ります。

\*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

昭和のバブル時代は、日本人が「エコノミック・アニマル」と呼ばれ、お金で自分の欲望を満たす恥知らずな人々と先進国の人に笑われました。平成に入ると、心の豊かさを追求する人が増え出し、生きる意味、死んでいく意味を深く考えだします。また、癌告知や臓器移植による脳死の問題など、医学の発展に伴って医師の倫理が問われ、新しい生命観を国民と共に考察する運動が起こります。平成に入ると少子高齢化が一段と進み、平成23年から日本の人口が減少し始めたのはシヨックです。4人に1人が高齢者の日本、不安だらけですね。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」これは有名な鴨長明の『方丈記』の序章です。続いて「世の中にいる人と住居をみても同じ。壮麗な京の都に競い建っている貴き人の家や貧しき人の家も永久になくならないものようであるが、本当にそうであるかと尋ねると、昔からある家は稀だ。去年焼けて今年建てたのもあれば、大きな家が没落して小さくなったたりしている。住んでいる人も同じ。京の都は相変わらず人が多いが、昔会ったことのある人は二、三十人のうち、わずか一人か二人。朝死ぬ人があるかと思えば、夕方生まれる子がいる。まさによどみに浮かぶうたかたにそっくりだ。ああ、私は知らぬ。こうして生まれたり死んでいく人がどこから来て、どこに消えてゆくのか。…」とありますが、愚僧も倉敷の町に住んで30年、新しい道路や家が建ち、お世話になった人々がどんどんとあの世に先立ち、『方丈記』のとおりです。

映画『ツナグ』で「この世の最上のわざは何？楽しい心で年をとり働きたいけれども休み しゃべりたいけれども黙り 失望しそうな時に希望し 従順に平静に己の十字架を担う … 人のために働くよりも 謙虚に人の世話になり 弱って もはや人の為に役立たずとも親切で柔和であること 真の故郷に行くために」とあり、愚僧は感銘しました。悔いのない人生を歩みたいものです。合掌(奥原 曇龍)

『除夜の鐘今年も無事に過ぎていく 悲しみ喜び静かにつつま』 どんりゆう



カット：  
奥原 綾

## ともしび説法

日時・十二月 六日(金)・午後一時から午後四時・早高の本堂。  
十二月三十一日(火)・除夜の鐘 午後三時～四時・鐘楼堂。  
一月 一日(水)・午後一時から午後四時・早高の本堂。  
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺 倉敷 検索](#)



# お釈迦様ものがたり

お釈迦様は、かつて厳しい修行をして覚りを開いたマガダ国のウルヴェーラ村の付近で宗教活動をしていた有名なカッサパ三兄弟を千人の弟子と共に仏教に帰依させ、仏教教団はどんどんと拡大していきます。

仏教の教団は、出家者を中心に発展していきませんが、出家しなければ覚れないのだから。仏教は我欲を捨て、怒らず、なにものにも執着せず、さらさらと生きていくのを理想としているなら、家庭をもたず出家生活をするのが当たり前かも知れません。しかし、それでは一般の人は在家生活をしているので、仏教の高い理想では救われません。

当時のインドでは、仏教以前から、出家によらなければ最高の理想は到達されず、在家生活によつては、第二義的な世俗善しか得られないとするのが、一般的な考え方でした。

お釈迦様も妻と子供を城に置いて出家し、厳しい修行をしたのも、当時の思想に影響されていきました。そこで仏教教団も出家が優先され、在家では阿羅漢の境地には到達しないとされ、出家者が尊ばれたのです。

もつとも後に大乘仏教が起こつてくると、むしろ在家生活に仏教の理想はあり、現実社会の苦しみや困難を解決してゆくところに、お釈迦様の教えを求めたのです。

とにかく、仏教でも最高の理想に到達するには、出家によらなければならぬとされてきたから、これを望む人たちは出家したのです。これが出家の第一目的でありましたが、仏教ではさらに、一般社会の悩める人や苦悩の人を救済し導くという第二の目標を持つようになりしました。

前に述べたように、お釈迦様はベナレスで裕福な貿易商人の息子たち六十一人を出家させ、阿羅漢の境地に導き、彼らを各自に諸方を遊歴させて、世俗の人を安らかな心に導く救済を命ぜられています。合掌(奥原曇龍)

ともしびに照らされ今年も暮れてゆく

悲しみ喜びすべてが光る 田辺多恵子



11月3日 秋の報恩講法要で総代さんたちと写す

## ともしび法話

今年も押しつまって来ました。皆様お元気でしようか。

お寺では師走の29日午後1時半から大掃除、30日午前9時より杵による餅つき、31日午後3時から除夜の鐘と続きます。元旦のともしび説法まで、お寺の行事が続きますが、読者の皆様気軽に参加下さい。

11月3日の心光寺・秋の法要では午前の催しでハッチ・ポッチの歌やオカリナ演奏とソラールのサククス&ピアノ演奏に感動し、午後からの法要儀式と仏教講演に厳粛な気持ちと心安らかさを味わいました。

倉敷市西中新田 古谷 洋子

### 【除夜の鐘】のお知らせ

十二月三十一日大晦日の午後二時半より法要後の三時から四時まで鐘を撞きます。深夜の「除夜の鐘」ではなく、夕方に鐘を撞くのは、昨年に続いて二回目です。

心光寺の檀家以外の人も、駐車場が広いので、気軽に参拝し鐘をならして下さい。

## ともしび説法

日時・十二月 六日「金曜日」 午後一時から午後四時まで。  
十二月三十一日「火曜日」 除夜の鐘・午後三時・鐘楼堂。  
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて  
電話・(086)420-1311 駐車場有り

○ともしび説法・お寺の行事予定

- 一月 一日(水)・午後一時から午後四時・早高の本堂。
- 二月 十三日(木)・午後一時から午後四時・早高の本堂。
- 三月 十三日(金)・午後一時から午後四時・早高の本堂。

☆ともしび会は、月額五百円の会費制です。(賛助会員募集中)。  
ともしび新聞を毎月発行し続けていますが、たくさんの方の費用がかかります。賛助会員になって下さる方があれば嬉しく思います。会員には、ともしびを郵送させていただきます。(お電話下さい)

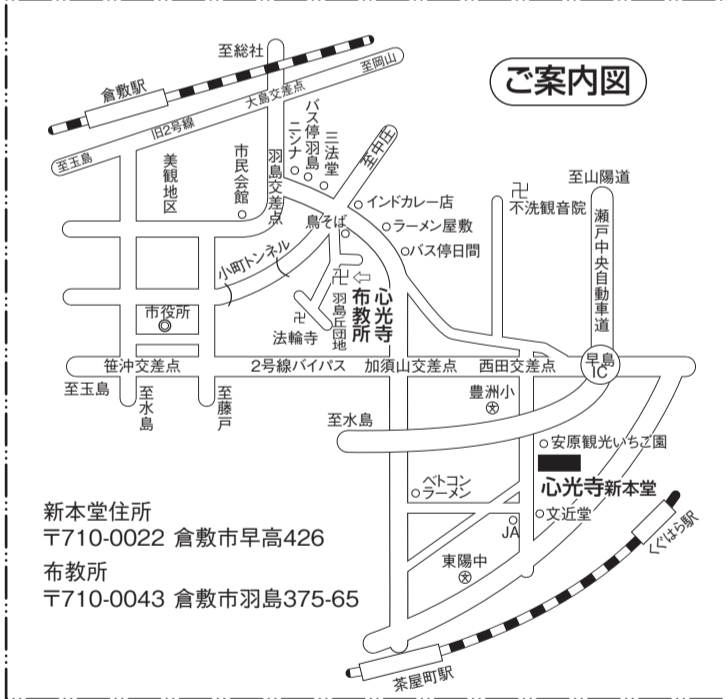


## いころの詩

師走はいそがしい  
まるで心を亡くしたみたいに  
みんな右往左往している  
無駄なことばかりに  
めいっばい頑張りつつ  
餅を食べながら今年も過ぎゆく  
除夜の鐘を静かに聞きながら



カット:吉岡美枝



浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。  
お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426  
浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺  
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322  
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「359号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法の日には茶屋町駅西口に12時35分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方は心光寺まで、ご連絡下さい。 合掌 心光寺 総代長 三村健